

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年12月10日 NO.68

花ちゃん 「寒（さむ）くなってきたけど、見てこのお花。いいかおりがするわよ。」

オー君 「ほんとだ。いいにおいだ。何ていう花なの、花ちゃん。教（おし）えて。」

花ちゃん 「この花は、ヒイラギというのよ。寒くなってからさくのよ。」

オー君 「あ！おいら、この葉っぱで遊（あそ）んだことがあるな。そうだ。思い出したぞ。指（ゆび）ではさんで、口でフーとやれば、くるくる回るんだ。」

花ちゃん 「うわあー。オー君！上手（じょうず）ね。私もやってみようっと。」

モンタ博士 「楽しそうだね。いっしょに遊ぼうね。ところで、このヒイラギの葉っぱをよく見てごらん。木の上の方から下の方までだよ。何か気がつかないかな。」

オー君 「あれ？全部（ぜんぶ）が全部、葉っぱのふちのところが、とげとげみたいになっていると思ったら、そうじゃないのもあるぞ。これは新発見（しんはっけん）というやつだ。」

花ちゃん 「葉っぱのふちがふつうの葉っぱみたいに丸（まる）くなっているのもあるわ。」

モンタ博士 「そうなんだ。ヒイラギはね、子どもの時の木はとげとげがあるけど、大きく太（ふと）い木になると、トゲトゲがなくなるんだよ。ところでこのヒイラギというのは、イワシの頭（あたま）をつけて、のき下などにさしておくのを見たことある？」

花ちゃん 「私、見たわ。でも、なぜ？」

オー君 「ばあちゃんに聞いたんだけど、オニがヒイラギのトゲトゲや



ヒイラギ

なまぐさい魚のにおいをいや
がっておうちの中に入ってこ
ないということなんだよ。」

モンタ博士「そのとおりだ。ついでに聞（きい）
ちゃおうかな。ヒイラギという
字は漢字（かんじ）でどう書くの。」

花ちゃん「うーん。うーん。分かりません。
ギブアップです。」



モンタ博士「ヒイラギという字は、漢字で『柎』と書くんだよ。木へんに冬だね。」

花ちゃん「寒くなって冬になってさく花だからね。木へんに春なら椿（つばき）ね。」

オー君「オオムラサキというチョウの食草のエノキは木へんに夏と書いて、榎なんだ。」

花ちゃん「木へんに秋は何て言うんだらう。そんな字あったかな。」

モンタ博士「榎…こんな字はないんだ。でも、草かんむりに秋で、萩（ハギ）という字は
あるよ。ハギは木なんだけど、木みたいに大きくなならないから、草かんむり
なのかもしれないね。」

オー君「モンタ博士。他に木へんのつく漢字で何かないかな。」

モンタ博士「ヒノキという字は漢字で桧なんだ。木をすりあわせて火をおこしたからさ。
それから、神様にそなえる木は榊（サカキ）だろ。南の地方にある木だから、
楠（クスノキ）だろ。甘い木だから柑（ミカン）なのさ（蜜柑ともかく）。堅
い（かたい）木だから櫟（カシ）だろ。それに、もっと堅くて石みたいな
のが柎（ツゲ）だよ。いろいろ調べてみるとおもしろいと思うよ。」

花ちゃん「まだまだありそうだわ。オー君。いっしょに探してみましよう。」

ヒイラギのつばやき

私はヒイラギです。香りがとてもいい白い花を咲かせるの。今ごろに咲く花はどことなく控えめでし
ょう。それが私の魅力かもしれないわ。私はモクセイ科モクセイ属（*Osmanthus* 属）で、キンモクセ
イとは姉妹のようなものなの。花は四枚のように分かれているようだけど、本当は下の方でくっついて
いるの。詳しく言うと、被子植物・双子葉植物・合弁花類。雌雄異株といって、雄の木と雌の木がある
のよ。実の色は黒いのよ。クリスマスの時に飾りに使うのは、セイヨウヒイラギとかアメリカヒイラギ
というものなの。だって、私は実が黒いでしょう。だから飾りには使えないそうよ。ちょっと残念だわ。
校長室の前にヒイラギとセイヨウヒイラギがあるから、ぜひ見に来て下さい。